

長崎県病害虫防除所長

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
普通期水稻	いもち病（穂いもち） （防除情報第8号）	-	やや多
	紋枯病 縞葉枯病 トビイロウンカ コブノメイガ 穂吸汁性カメムシ （防除情報第9号）	やや少 並 やや少 やや少 やや多	やや少 並 やや少 並 やや多
大豆	ハスモンヨトウ	やや多	やや多
いちご （育苗床）	うどんこ病 炭疽病（ <i>G.cingulata</i> ） 輪斑病 ハダニ類 アブラムシ類 ハスモンヨトウ	並 並 並 並 やや多 並	並 やや多 並 並 やや多 並
アスパラガス	アザミウマ類	やや多	やや多
かんきつ	かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ	並 並 並 やや少	並 並 並 やや少
びわ	がんしゅ病 ナシヒメシンクイ	少 少	少 やや少
果樹共通	カメムシ類（技術情報第3号）	やや少	並
茶	炭疽病 チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ クワシロカイガラムシ	並 やや多 並 やや多 やや多 やや多 並	並 やや多 並 やや多 やや多 やや多 並

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

普通期水稻

1. いもち病

平成23年8月17日付け、**病害虫発生予察防除情報第8号**による。

2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(89筆)の結果、発病株率は0.1%
(1.6%)、発生圃場率は6.7%(21.8%)であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発病株率は
6.0%(5.8%)であった。

3. 縞葉枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(89筆)の結果、発病株率は0.1%
(0.3%)、発生圃場率は33.7%(23.2%)であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかつた(発病株率 0.0%)。

ウ 8月上旬の巡回調査(89筆)の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は
0.8頭(0.3頭)、発生圃場率は86.5%(55.8%)であった。

エ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、普通期、無防除)調査の結果、株当たり
虫数は0.02頭(0.1頭)、寄生株率は2.0%(10.5%)であった。

4. トビイロウンカ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(89筆)の結果、寄生を認めなかつた(株当たり虫数
0.04頭、発生圃場率26.2%)。

イ 8月3半旬の県予察圃場(無防除)調査の結果、株当たり虫数は
0.04頭(0.14頭)、寄生株率は4.0%(14.4%)であった。

ウ 8月13~14日にかけて飛来が認められている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 地域や圃場により発生状況が異なり、同一圃場内でも偏って発生している
ことが多いので、できるだけ圃場の見回りを徹底し、圃場全体の発生状況を把握
して防除を行う(飛来波の今後の発生予測は別紙図のとおり)。

イ 8月下旬の要防除水準は株当たり虫数が1頭である。

ウ 株元に多く寄生するので、薬剤散布にあたっては株元に薬剤が十分付着する
よう丁寧に散布する。

5. コブノメイガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(89筆)の結果、食害株率は5.3%(13.3%)、
発生圃場率は78.7%(79.9%)であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場(無防除)調査の結果、食害株率は12.0%
(27.8%)であった。

6. 穂吸汁性カメムシ類

平成23年8月17日付け、**病害虫発生予察防除情報第9号**による。

大豆

1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

- ア 8月上旬の巡回調査(15筆)の結果、幼虫の寄生株率は9.9%(5.3%)、株当たり虫数は0.3頭(0.8頭)、白変葉発生圃場率は86.7%(52.3%)であった。
- イ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(幼虫の寄生株率3.4%、株当たり虫数0.3頭)。
- ウ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、やや多い状況で推移している(図)。

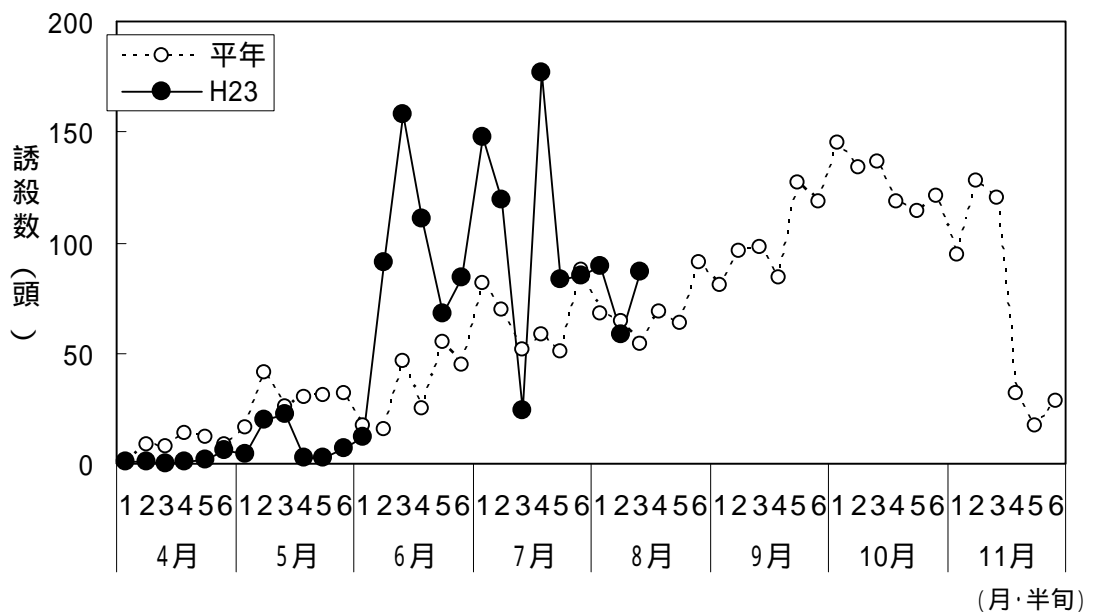


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越町)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 圃場の見回りを徹底し、白変葉が散見され始めたら早急に防除を行う。
- イ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので若齢幼虫期に薬剤散布する。

いちご

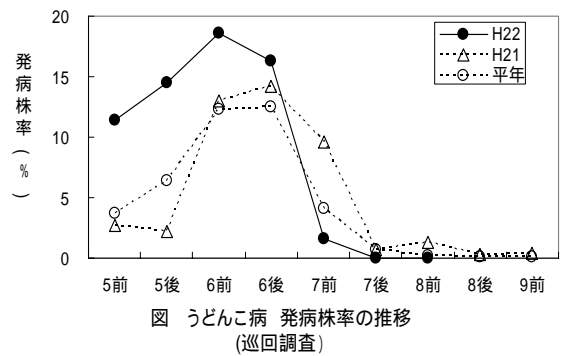
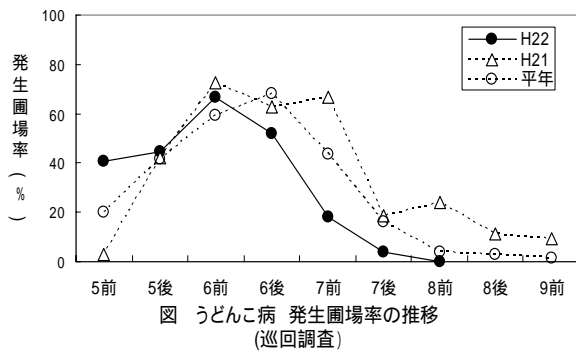
1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- 8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発生を認めなかった(発生圃場率4.1%、発病株率0.2%)。



(3) 防除上注意すべき事項

- ア 薬剤散布は、薬液が葉裏、葉柄に十分かかるように散布する。
- イ 除去した茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。
- ウ 薬剤耐性菌発達防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。
- エ 炭疽病対策として、雨よけ育苗をおこなっている場合は、うどんこ病が発生しやすいので、注意する。
- オ 夜冷・株冷処理を行なう場合は、入庫前の防除を徹底する。

2. 炭疽病 (*G.cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

- ア 8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は0.0%(0.3%)、発生圃場率は6.1%(11.5%)であった。
- イ 病害虫防除員の報告によると、やや少~やや多の発生であり、一部多発圃場もみられている。
- ウ 8月14~15日にまとまった降雨があり、病原菌の飛散、感染に好適であったため、今後の気象次第では発生が増加することが予想される。

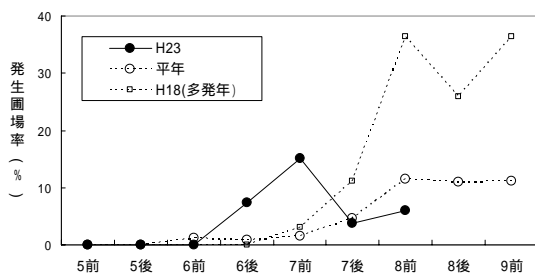


図1 炭そ病 (*G.cingulata*) 発生圃場率の推移 (巡回調査)

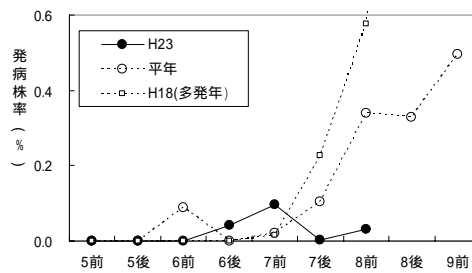


図2 炭そ病 (*G.cingulata*) 発病株率の推移 (巡回調査)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 育苗床が多湿にならないように、連続した長時間のかん水はしない。密植を避け、排水対策を確実に行う。
- イ 発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分し、本圃へ持込まない。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。
- ウ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤防除する。特に強雨、台風などの前後や下葉除去など株を傷つけるような作業後に重点的に行う。
- エ 夜冷・株冷処理を行なう場合は、入庫前の抜き取り及び薬剤防除を徹底する。

.....

3. 輪斑病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は2.5%(7.8%)、発生圃場率は39.4%(37.7%)であった。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、寄生株率は3.4%(4.0%)、発生圃場率は33.3%(25.1%)であった。

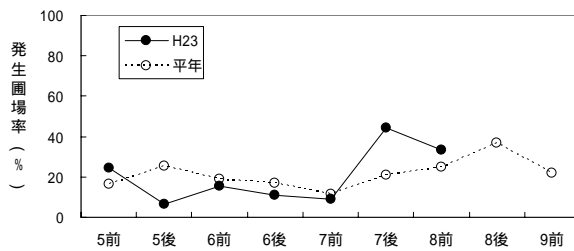


図 ハダニ類 発生圃場率の推移(巡回調査)

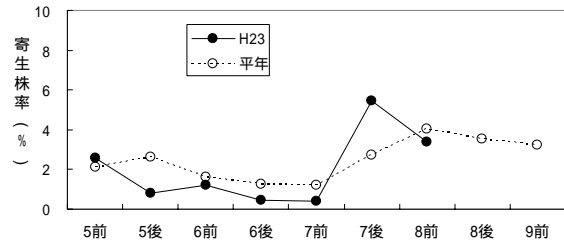


図 ハダニ類 寄生株率の推移(巡回調査)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 多発生後の防除は困難となるので、早期発見、早期防除に努め、本圃へ持ちこないようにする。
- イ 下葉の裏に多く寄生するので、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。
- ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。
- エ 本圃での天敵放飼を予定している場合は、薬剤によっては長期間影響を与えるものがあるので、使用時期に注意する。

5. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、寄生株率は2.6%(0.6%)、発生圃場率は18.2%(10.2%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 多発生後の防除は困難となるので、早期発見、早期防除に努め、本圃へ持ちこないようにする。
- イ 葉裏に寄生することが多いので、葉裏に薬液がかかるように丁寧に散布する。
- ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

6. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、食害株率は0.3%(2.2%)、発生圃場率は12.5%(33.9%)であった。
- イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、やや多い状況で推移している(大豆の項参照)。

アスパラガス

1. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(9筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所)は28.0頭(過去4カ年平均10.2頭)、発生圃場率は88.9%であった(過去4カ年平均72.2%)。

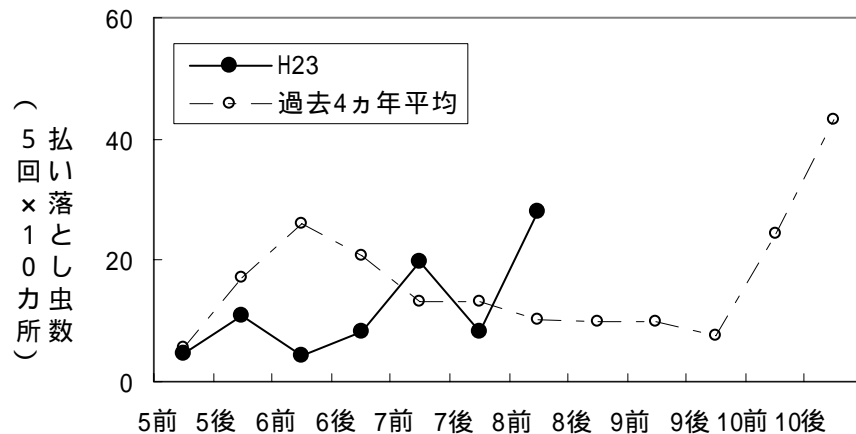


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移(巡回調査)
払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

かんきつ

1. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病葉率は0.2%(0.5%)、発生圃場率は20.5%(18.9%)であった。

2. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病果率は4.5%(5.7%)、発生圃場率は51.3%(37.5%)であった。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は14.7%(13.6%)、発生圃場率は53.8%(59.9%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 気温が低下してくると発生が増加するので、発生初期に防除する。
- イ 薬剤感受性の低下を防ぐために、同一薬剤は連用しない。

4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

- ア 8月上旬の巡回調査(39筆)の結果、果梗部の被害果率は0.6%(0.9%)、発生圃場率は12.8%(20.2%)、果頂部の被害果率は0.3%(0.9%)、発生圃場率は10.3%(12.8%)であった。
- イ 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年よりやや少なく推移している(図)。

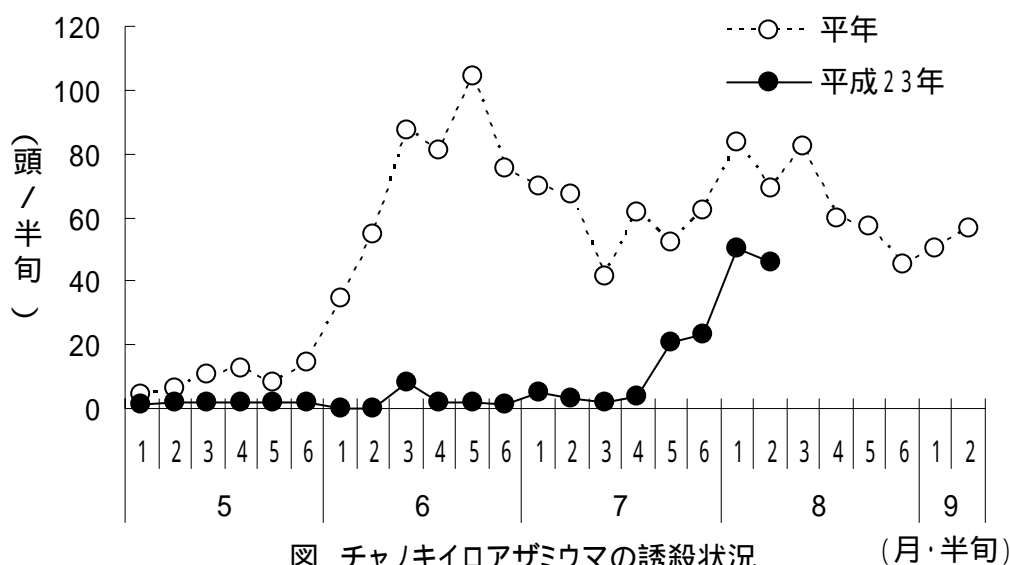


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況 (諫早市小船越町: 黄色粘着トラップ)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 下表の予測発生ピーク日5日前から発生ピーク日に薬剤散布をすると防除効果が高い。
- イ ただし、発生が多い圃場では、1果当たりの寄生虫数が0.3~0.5頭に達する前に防除を行う。
- ウ 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

表 チャノキイロアザミウマ発生予測プログラムによる成虫の予測発生ピーク日

	長崎	大瀬戸	佐世保	口之津	平戸
第5世代	8/8	8/19	8/8	8/8	8/22
" (前年)	(8/4)	(8/15)	(8/5)	(8/4)	(8/18)
第6世代	8/25	9/8	8/26	8/26	9/11
" (前年)	(8/20)	(9/1)	(8/21)	(8/20)	(9/4)
標高(m)	27	43	4	10	58

注1: 気温データは各地域のアメダスデータを使用した(表中の地名: アメダス地点)。
 注2: 平成23年8月15日までは実測値を使用し、8月16日以降のデータは平年値を使用した。
 注3: 同一地区内でも、山間部では予測発生ピーク日が異なる場合があるので注意する。また、降雨等により予測日が変動する場合がある。

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(発病枝葉率4.9%、発生圃場率62.5%)。

2. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(寄生枝葉率0.2%、発生圃場率10.0%)。

イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、6月6半旬~7月5半旬は少なかったが、7月6半旬以降は平年並に推移している(図)。

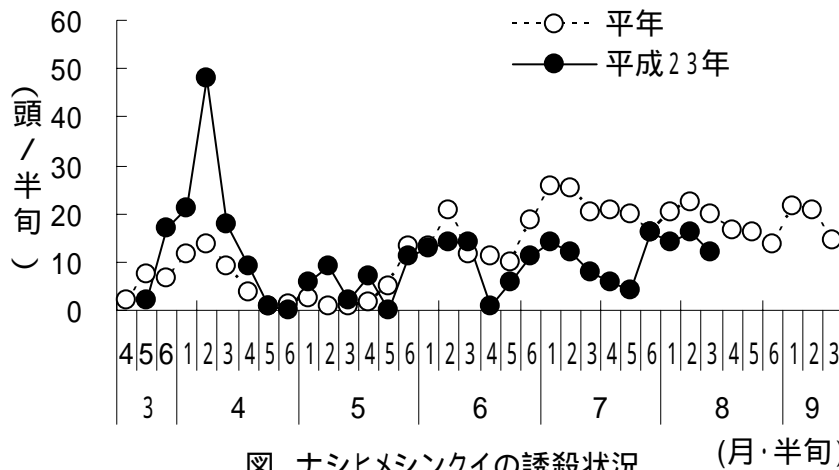


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況 (月・半旬)
(諫早市小船越町:フェロモントラップ)

(3) 防除上注意すべき事項

せん定跡に食入しやすいので、せん定や芽かき後には必ず防除する。

果樹共通

1. カメムシ類

平成23年8月17日付け、**病害虫発生予察技術情報第3号**による。

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡あたり発病葉数は2.4枚(3.1枚)、発生圃場率は75.0%(48.1%)であった。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は48.6頭(14.5頭)、発生圃場率は100%(73.1%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

3. チャノココクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数は0.1枚(0.2枚)、発生圃場率は20.0%(19.1%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は平年並で推移している(図)。

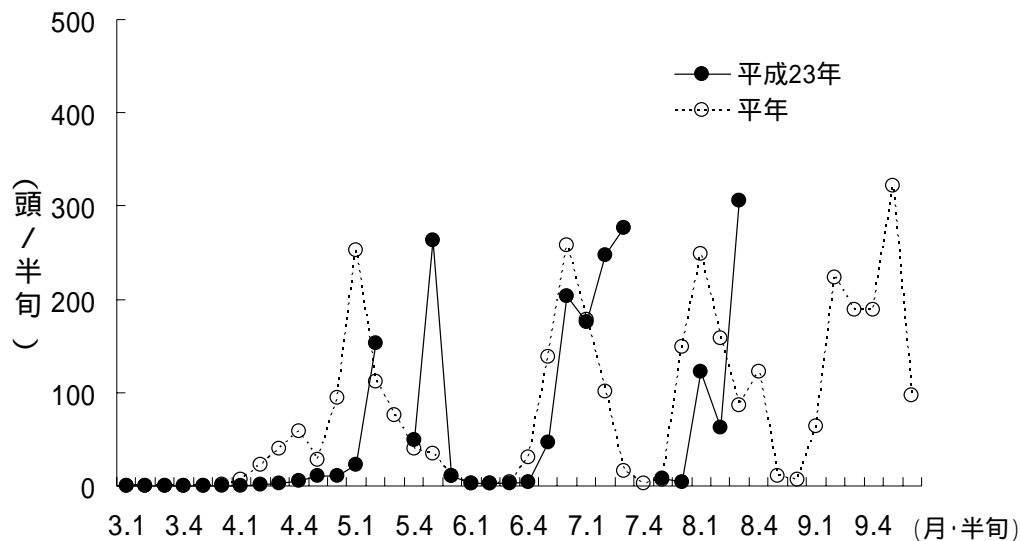


図 チャノココクモンハマキの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

注: 5月3半旬、7月4半旬は欠測

4. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数は0.4枚(0.2枚)、発生圃場率は50.0%(14.1%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は7月3半旬以降平年よりやや多く推移している(図)。

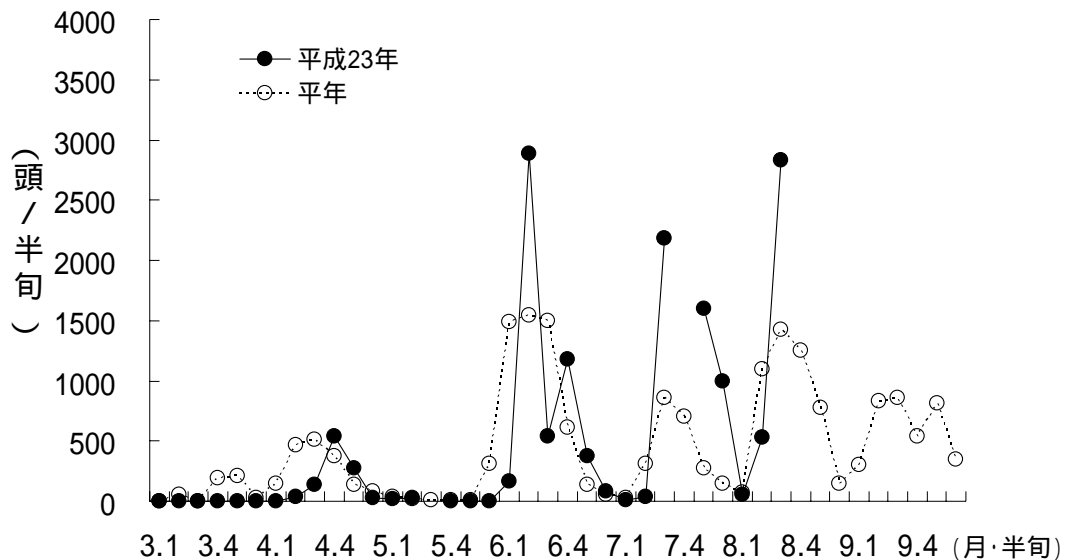


図 チャノホソガの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）
注：5月3半月、7月4半月は欠測

5. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査（20筆）の結果、寄生葉率は1.8%（0.4%）、発生圃場率は45.0%（11.6%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

葉裏にも十分薬剤がかかるよう散布する。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査（20筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は3.7頭（1.9頭）、発生圃場率は75.0%（48.3%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査（20筆）の結果、寄生株率は14.2%（3.7%）、発生圃場率は40.0%（29.5%）で、一部多発圃場が見られた。

【参考】

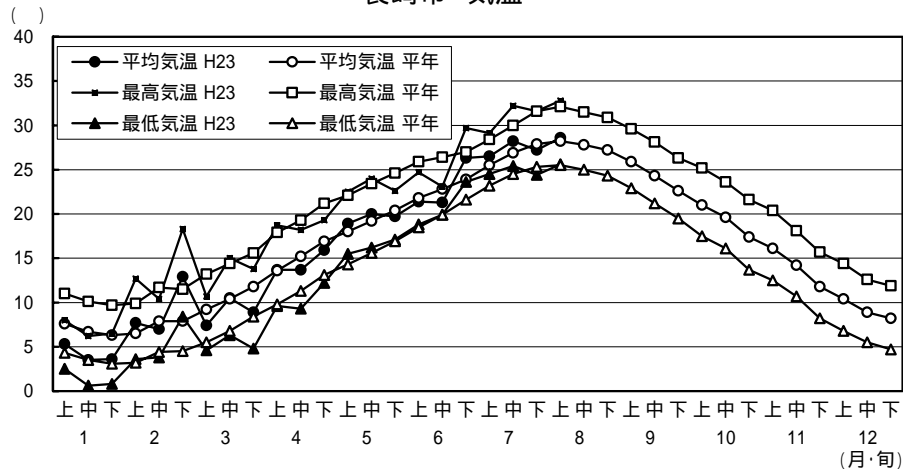
気象 (平成23年8月12日発表 1か月予報 福岡管区気象台)
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	30	40	30
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

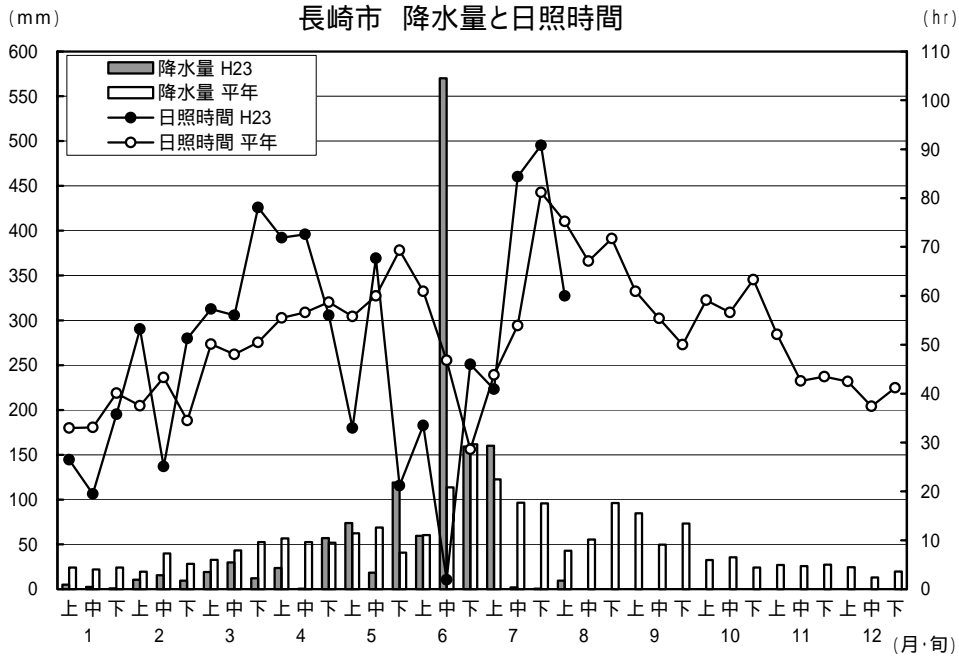
予報対象地域：九州北部地域

平成23年の気象経過 (長崎海洋気象台)

長崎市 気温



長崎市 降水量と日照時間



6月1日から8月31日までの3ヶ月間を「農薬危害防止期間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

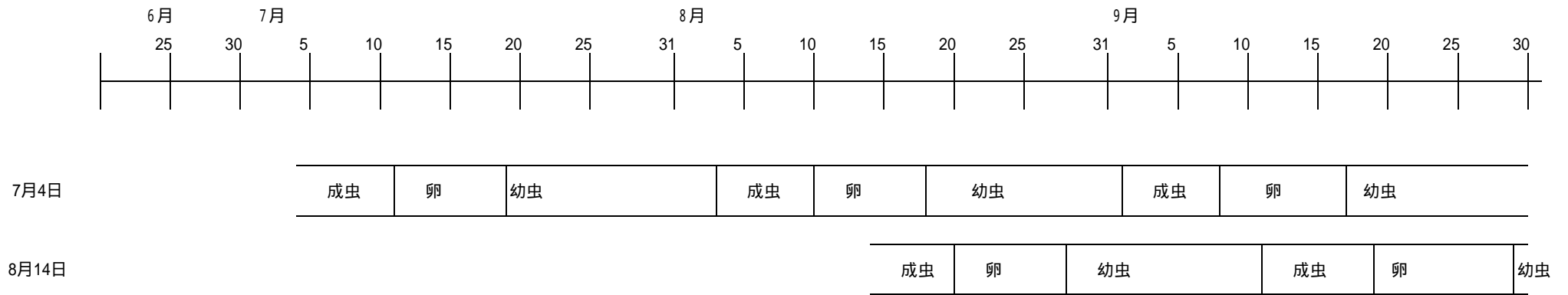
病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnp.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

(図) トビロウンカの発生予測図(平成23年)
トビロウンカ



発生予測の気温は諫早市貝津町(農林技術開発センター)のデータを用いた(8月15日まで実測値、16日以降は平年値)